

# バイオテクノロジー戦略大綱詳細 行動計画への取組

平成17年3月15日

# バイオテクノロジー戦略大綱 詳細行動計画実施状況

- H16年1月20日 第6回BT戦略会議開催
- H16年2月 カルタヘナ議定書国内担保法の施行
- H16年5月 「知的財産推進計画2004」の策定
- H16年6月 H17年度科学技術に関する予算・人材の資源配分方針策定
- H16年7月23日 ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方
- H16年9月9日 8つの科学技術連携施策群テーマ決定
- H16年10月 H17年度予算案への優先順位付け(SABC)の実施(全てチェック)
- H16年12月 イネゲノム塩基配列の完全解読
- H16年12月 基本政策専門調査会において第三期科学技術基本計画の検討開始
- H17年3月15日 第7回BT戦略会議開催

# 進捗状況評価の深化

第6回BT戦略会議で進捗状況の評価を深化すべきとの指摘  
(前は未実施、実施中、完了の3段階)

5段階評価(未実施、序盤、中盤、終盤、完了)に深化

(例) 詳細行動計画が研究開発を目標とする場合

未実施:未着手

序盤:目標へ向けた研究開発に着手

中盤:目標達成に向けて研究開発を実施中で、成果があがりつつある

終盤:目標達成できる目処がたっている

完了:研究開発目標を達成

(具体例)

●タンパク3000プロジェクト

前回:613種類のタンパク質の構造解析(実施中)

→ 今回:1640種類のタンパク質の構造解析、抗SARS薬候補の発見(中盤)

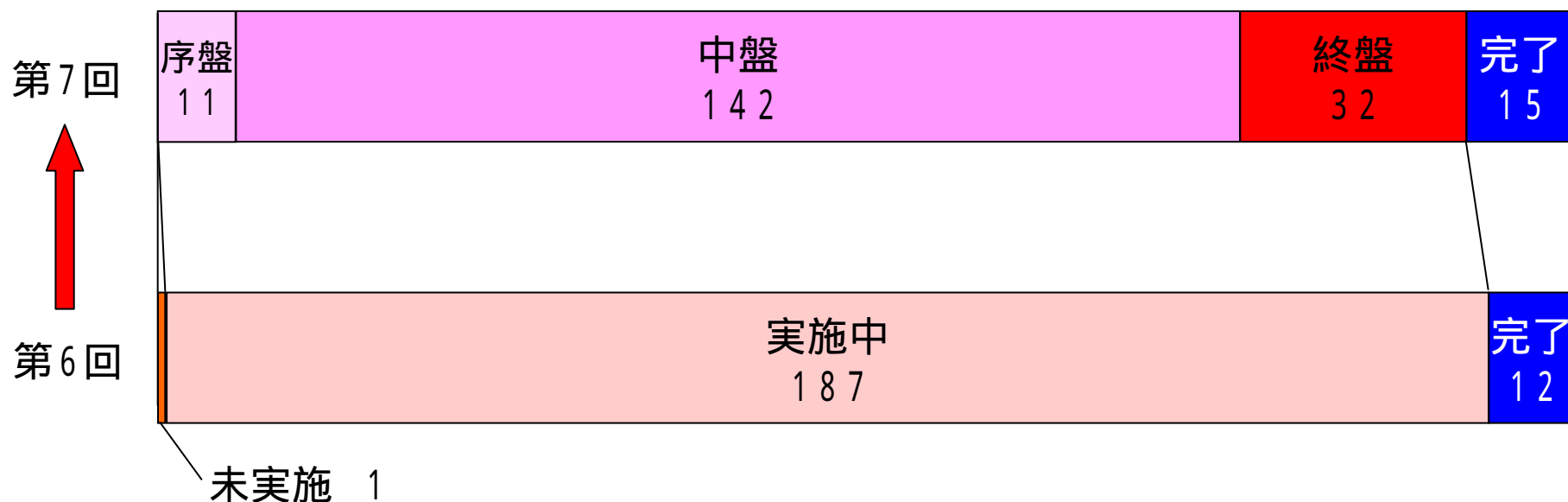
●ゲノム育種

前回:重要な形質に絞った遺伝子の解明について実施(実施中)

→ 今回:草丈の低いコシヒカリの開発(中盤)

# 詳細行動計画の進捗状況

## 200の詳細行動計画



200の詳細行動計画のうち、完了:12 15(3増)、実施中:187 185(2減)、未実施:1 0となった。なお、実施中の詳細行動計画185の内訳は、終盤:32、中盤:142、序盤:11であった。

# 詳細行動計画の進捗状況(戦略1)

## — 研究開発の圧倒的充実 —

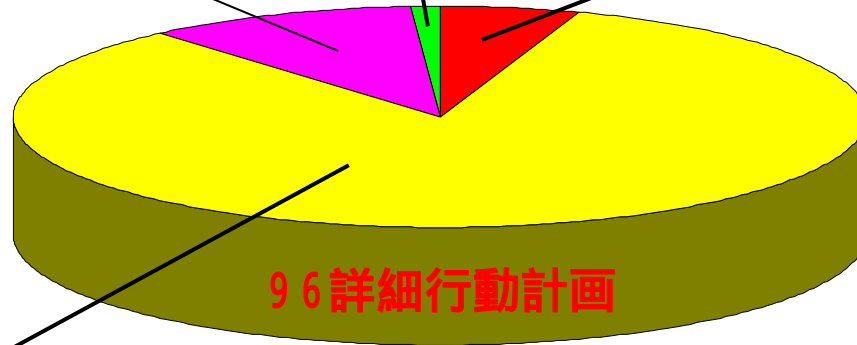
終盤 10

- 糖鎖エンジニアリング  
インフルエンザウイルスを抑える糖タンパク質
- PO、PDの設置  
(PO 332名、PD21名)
- (独)医薬基盤研の設立  
創薬プロセス等を支援

完了 1

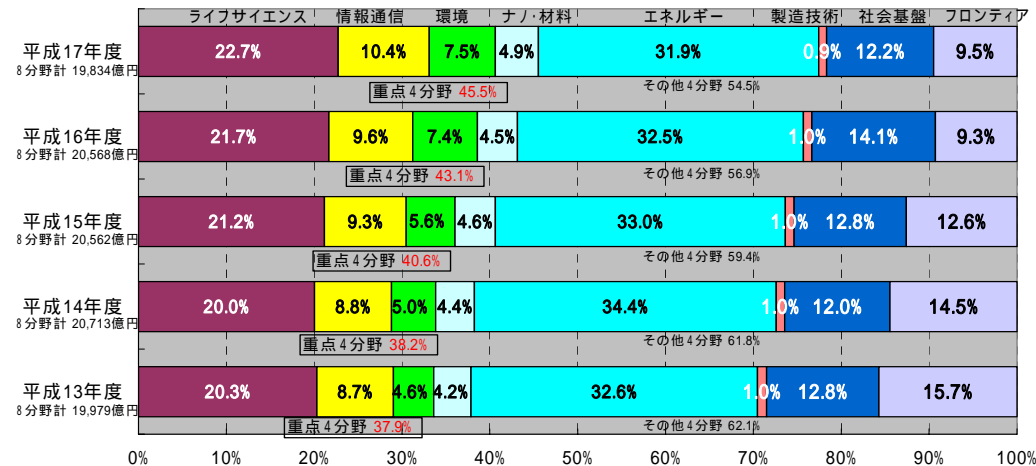
序盤 5

- 遺伝子治療ベンチャー支援
- 産・学・官融合的研究拠点の設置  
神戸バイオテクノロジー  
研究・人材育成センター



中盤 80

- BT関連予算は着実に増加
- タンパク3000 ゲノム創薬の実現  
SARSに対する薬剤の候補化合物
- イネゲノムの完全解読 ゲノム育種  
草丈が低く倒れにくいコシヒカリの開発
- 再生医療の実現化  
幹細胞バンクによる提供開始



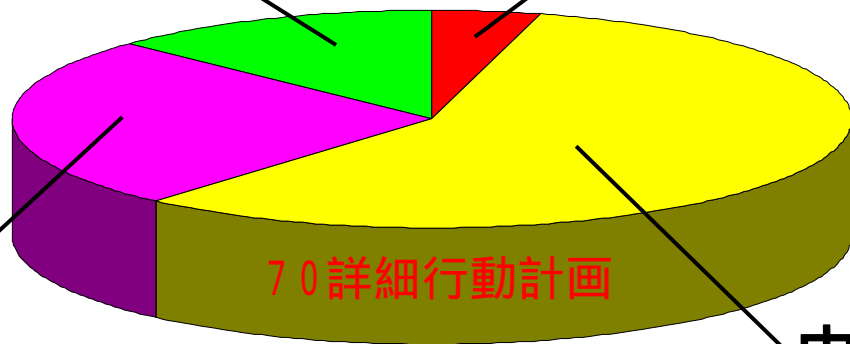
# 詳細行動計画の進捗状況(戦略2) ー産業化プロセスの抜本的強化ー

完了 9

- エンジェル税制実施  
ベンチャー企業の創業支援

序盤 3

- 技術的・社会的にリスクの高い医療機器の国際競争力を高めるための環境整備の検討  
医療機器開発ガイドラインの作成等



70 詳細行動計画

終盤 18

- 微生物によるバイオレメディエーション利用指針告示  
安全性評価手法の一元化

中盤 40

- 「知的財産推進計画2004」の推進  
発明・創作を尊重する国の方向性を明らかにする
- 「全国治験活性化3カ年計画」の推進  
大規模治験ネットワークの構築、治験コーディネーターの養成
- 産学官共同研究の効果的な推進  
技術シーズと産業界のニーズのマッチング

# 詳細行動計画の進捗状況(戦略3)

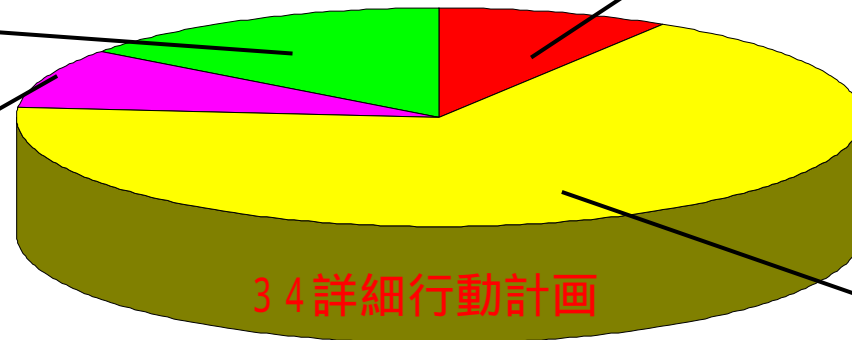
## — 国民理解の徹底的浸透 —

- 「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」意見具申  
生殖補助医療、再生医療研究に新たな路を拓く
- リスクコミュニケーション機関の整備

完了 5

序盤 3

- 医薬品・医療機器の審査の迅速化  
(独)医薬品医療機器総合機構の設立、審査機関の短縮、審査員の増員



中盤 22

終盤 4

- 個人遺伝情報の保護  
「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」の全部改正、「経済産業分野のうち個人遺伝情報を用いた事業分野における個人情報保護ガイドライン」の策定。

- 科学技術・理科大好きプラン  
理科離れの防止
- 遺伝子組換え作物に関する情報発信  
シンポジウム開催、インターネットでの情報発信
- リスクコミュニケーションの実施  
食品安全委員会による意見交換会の開催
- 愛・地球博  
バイオマスプラスチック製品等の導入による循環型システム構築に向けた実証事業の実施。

# BT推進の連携強化

各府省の縦割りの施策に横串を通す観点から、総合科学技術会議は、国家的・社会的に重要であって関係府省の連携の下に推進すべきテーマを定め、関係府省とともに、「**科学技術連携施策群(連携施策群)**」として積極的に推進

## BT分野では4施策群

- ポストゲノム
- 新興・再興感染症
- バイオマス利活用
- ナノバイオ

# 3つの戦略により実現される社会像

## 「健康と長寿の達成」 (よりよく生きる)

- ・ゲノム創薬(ゲノム情報を利用した新薬の開発)
- ・トランスレーショナルリサーチ(基礎と臨床の橋渡し)
- ・テーラーメイド医療(30万人のSNPs、データベースの整備)
- ・機能性RNA(新分野の開拓)

「期待しうる効果」(例)・・・がん患者の5年生存率(治癒率)改善

## 「食料安全性、機能性の向上」 (よりよく食べる)

- ・ゲノム育種(ゲノム情報を利用した新品種の開発)
- ・リスクコミュニケーションの徹底(食の安全性)
- ・生物多様性影響評価、安全性の確保と国民理解の徹底浸透による遺伝子組換え作物の利用

「期待しうる効果」(例)・・・食料自給率の向上にBTとしても貢献

## 「持続可能な快適社会の実現」 (よりよく暮らす)

- ・バイオプロセス(資源リサイクルの革命的变化による持続可能な経済社会)
- ・バイオマスエネルギー(廃棄物削減、化石資源依存の低減、エネルギー自給率向上)
- ・植物・微生物による環境浄化

「期待しうる効果」(例)・・・原油使用量の大幅削減、経済と環境の両立

## 世界への貢献

- ・感染症対策、地球温暖化対策、食料問題への対応

## 国際競争力向上 新産業創出

- ・既存産業分野でのBTの積極的活用
- ・ゲノム創薬、バイオプロセス、バイオツール、バイオインフォマティクス等